

- | |
|---|
| 2. 取組を進めるに当たり困難であった事例〈非公表プログラムの事例〉
D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化
④その他 |
|---|

〈非公表プログラムの事例〉

取組を進めるに当たり困難であった事例について

D. 産業界、地域社会等多様な社会部門と連携した人材養成機能の強化

④その他

●事例 1

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

本教育プログラムにより始まった PBL 学習の課題にも地域と連携したプロジェクトが含まれていたが、それらは PBL を実際に実施する教員が個人的な繋がりで見つけて実施していた。地域と連携した PBL を組織的に支援することを目的として、商工会議所と本学人材育成センターの間で組織的な協力関係を構築しようとしたが、達成できなかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

商工会議所との間で協定を結べるかどうかなどの検討を行ったが、対応する組織が当該研究科のレベルではバランスが取れなかった。また大学本部も別の枠組で商工会議所との連携を実施しており、そちらの事業との調整もつかなかった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

本取組の主体は研究科であったが、地域と連携した活動を組織的に行うには大学本部など大学全体の組織との連携で考える必要があった。

また、地域と連携した教育活動が複数の組織に跨って実施されており、相手先との関係と共に学内での整理も必要であった。